

平成 21 年度宮前区区民会議  
宮前区の宝さがし～ときめき再発見～部会(第 5 回)

平成 21 年 10 月 16 日(金) 18 時～20 時  
区役所 4 階第 1 会議室

次 第

開 会

1 議 事

(1) 部会報告書(案)について

2 その他

閉 会

《配布資料》

資料 1 宮前区の宝さがし～ときめき再発見～部会 報告書(案)

宮前区区民会議

宮前区の宝さがし～ときめき再発見～部会

報告書(案)

平成21年11月13日



## 1 はじめに

宮前区区民会議 宮前区の宝さがし～ときめき再発見～部会は、2008年6月の部会発足以来、2009年10月まで3ヶ月に2回のペースで合計12回の会議を重ねてきました。

第1期では、「高齢者福祉」「子育て支援」「地域防災」など地域の様々な課題に対処するためには、地域コミュニティが機能していることが非常に重要であるということが確認されました。

第2期では、こうした第1期の審議内容を踏まえ「地域コミュニティの活性化」を大きなテーマとして設定し、この部会では「**地域みんなで共有できる宝物（顔）を通じて地域への誇りや愛着を育み、地域コミュニティの形成を図る**」ことを目指すべき方向性として、1年半にわたり議論を行ってきました。

高度成長期以降に都心部のベッドタウンとして発展してきた経緯を持つ宮前区は、農村としての営みは遥か昔からありましたが、都市としての歴史は浅いため、多くの区民は居住を開始してからまだ一世代・二世代目なのではないでしょうか。そのためか、「宮前区と云えば？」という問いに対して区民の誰もが答えられる共通の「宝物（顔）」と言えるものは、残念ながら現状ではなかなか思い浮かばないのではないかと思います。

また、こうした状況は、地域のことにはあまり関心のない「川崎都民」と呼ばれる区民の多い宮前区の地域特性とも密接に関わっていると考えられます。「川崎都民」が多いのは都心部のベッドタウンとして宮前区が発展してきた経緯を考えれば仕方のないことですが、部会では、このような点も前提として受け入れながら、宮前区に住まう人々がいかにして地域への愛着を育み、地域コミュニティを活性化させていくか、という観点から具体的な課題解決策を審議し、このたび次の提案をまとめるに至りました。

### 【宮前区の宝さがし～ときめき再発見～部会からの提案】

#### ● 提案：宮前区のカルタをつくろう！

提案の詳細は後述しますが、提案に至るまでの現状把握・課題の設定などを含めて、これまでの審議内容を次のとおり報告します。

## 2 宮前区の宝・顔に関する現状と取組

### (1) 地域資源（宝物）に関する現状

宮前区内には、歴史文化・自然・市民活動・都市農業など多くの魅力的な資源がありますが、その大半は区民にあまり知られていません。

これは、昭和41年の田園都市線の長津田駅までの延伸に伴って順次沿線開発が始まったという宮前区の歴史的経緯に起因していると考えられます。都心部のベッドタウンとして発展を遂げてきた宮前区は、都市としての歴史もまだ40年余であり、また、過去に

社宅などが多かった関係で通勤族が多く、いわゆる「川崎都民」と呼ばれる区民が数多く住んでいるという特徴があります。

このため、宮前区は極端に言えば「腰掛けで住むところ」「眠るためだけに帰るところ」といった場所となってしまう、生活をする上で地域のことにはさほど関心を払う必要がありませんでした。例えば、住宅地のすぐそばで展開されている都市農業では、「かわさきそだち」にも指定されている質の良い農産物がたくさんありますが、区内での販売ルートがあまり確立されていないことなどから、区民にはあまり知られていません。

こうした状況などもあり、市内7区中では最も遅い形となりましたが、平成19年度には、「住んでよし・訪れてよし」をキャッチフレーズに、宮前区観光協会が発足し、区内の魅力発信に向けた活動を開始しています。

このほかに一般論として、地域の宝といえるものに目に見える宝のほか、目に見えない宝として風土などもあると考えられます。

## (2) 宮前区に対する内外のイメージ

部会では、「自然豊かな閑静な住宅地で、教育水準も高いといわれているが、繁華街が少なく、特徴・シンボルに欠ける面がある」といったものが、概ね委員が共通して抱いている宮前区のイメージでした。

一般的には、田園都市線沿線を中心に、都心へのアクセスの良さと緑豊かな暮らしを併せ持つ住宅地としての人気が高いほか、特に教育の評価が高く、子どもの教育のために宮前区に引っ越してきたという話も聞かれます。

その一方で、「宮前区ってどんなまち？」と一般区民を対象に聞いたとしても、答えられるものや、共通のイメージが無いのではないかと、という感想を持ちました。

平成14年度に行われた「川崎市政及び区政に関する市民1万人アンケート」によれば、「お住まいの区のイメージは？」という設問に対して、「とくにない」と回答した区民の割合が7区で最も高かった(12.1%)という結果が、この委員の感想を裏付けるデータになっていると考えられます。

## (3) その他宮前区をめぐる現状

宮前区は、宮前地区と向丘地区とに分かれており、現在は、東名高速道路が概ねその境となっています。川崎市域はかつて武蔵国の一部を構成していましたが、宮前地区は相模の国の影響が、向丘地区には武蔵の国の影響が残っているのではないかと、との意見が委員からは出されました。

このほか、現在雑誌等において紹介される機会が多いのは、田園都市線沿線の地域が中心となっています。

# 3 解決すべき課題など

## (1) 資源の分類について

課題の抽出や解決策の検討に先立ち、宮前区内の既存の資源の情報の収集を行いました。また、それを広く区民に紹介することを見据え、資源の分類方法等について審議しました。

## ■ 5つの大分類…自然、歴史文化、産業、活動、まち・施設

資源の分類については、できるだけわかりやすくシンプルであるべきという意見を踏まえ、以下の5つの大分類としました。

自然	緑・緑地・公園、水、生物、植物 など
歴史文化	史跡・遺跡、歴史のある道、伝承・民俗文化、寺社仏閣、ゆかりの人物 など
産業	食べ物、その他産物、農業、工業 など
活動	イベント、市民活動 など
まち・施設	ランドマーク・モニュメント、施設、道、商店 など

また、これらの資源を実際に紹介する際には、その資源のある地域やその資源を楽しむことができる時期などもデータ化し、資源データの検索の方法はできるだけたくさんあった方がよいとの意見もありました。

## ■ 楽しむ方法…みたい(見/観)・ききたい(聞/聴)、買いたい・食べたい、やってみたい

宮前区の資源を紹介する際に、区民にその資源により親しみを感じてもらうために、「楽しむ方法」という別の観点から資源を分類することとしました。

### (2) 「資源」「宝」「顔」の定義について

具体的な課題解決策の審議にあたり、部会で何気なく使われていた地域の「資源」「宝」「顔」という言葉について、しっかり定義することとしました。

#### 宮前区の「資源」…まだ区民が知らない、区民にあまり知られていないものも含む

もっとも広い範囲をさす言葉で、まだ発見されていないものも含まれる。

#### 宮前区の「宝」……区民に知られている、区民に大切にされているもの

資源の中でも、ある一定の地域や範囲の区民に知られているもの。また、区民に大切にされているものが“宝”である

#### 宮前区の「顔」……区外にも知られている、区民の誇り・シンボルになっているもの

宝の中でもさらに、区外にも広く知られており、宮前区の魅力として広く認められているもの、区民の誇りやシンボルになっているものが“顔”である。

例えば、宝物はある地域や人々の間で密かに、門外不出の形で守られている場合も考えられますが、顔になるには、外からもその魅力が明確になっている必要があるものと考えられます。

### (3) 「宝」や「顔」があるまちのイメージ

まちの宝や顔があることによって、次のような効果が期待できると考えられます。

#### 【区民一人ひとりの立場で考えた場合】

- ・「宮前区ってどんなまち？」と聞かれた場合、自信を持って、自分の住んでいるまちの特徴や魅力を区外の人に紹介することができる

- ・それぞれが地域に愛着を持っていて、終の棲家とすることも考えている
- ・地域を大切に思い、近隣との良好なコミュニケーションが図れている

【地域社会全体で考えた場合】

- ・地域に愛着を持つ区民が多くなることで、豊かな地域コミュニティが形成されている
- ・豊かな地域コミュニティを礎として、地域の課題も地域が主体となって解決にあたっている

(4) 解決すべき課題について

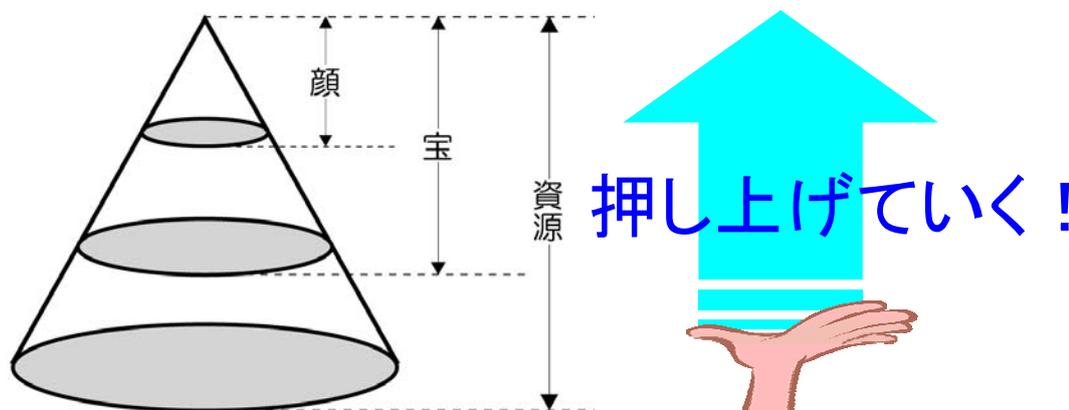
宝や顔があるまちづくりに向けて、部会では、解決すべき課題を次のとおりとしました。

■ **課題：区内の資源の共有・押し上げ**

区内の「資源」が「宝」や「顔」となっていくためには、まず区民一人ひとりに資源の存在を知ってもらったうえで、区内全体で共有し、最終的には対外的に発信して区外からも認知してもらう必要があります。

「資源」が「宝」を経て「顔」となるまでのプロセスを図で示すと以下のようになります。共有の度合いは、「資源」が「宝」に、「宝」が「顔」になるほど高まると考えられます。地域の資源を“発見”し、それが“共有”されることで地域の宝になり、さらにそれが広く“情報発信”されることで、地域の顔となっていきます。

部会では、「資源」を「宝」や「顔」に押し上げていくプロセスを具体化し、これに地域単位で多様な世代の住民が関わり楽しみながら参加できるようにしていくことを解決すべき課題として設定しました。



## 4 地域の宝さがしを通じた地域コミュニティの促進に関する具体的な解決策

### ● 提案：宮前区のカルタをつくろう！

#### 【趣旨・目的】

- ・ 幅広い世代が参加して地域の「資源」を探し出し、「宝」・「顔」へと押し上げていく過程を通じて、地域への愛着を涵養し地域コミュニティの活性化を目指します。

#### 【実施内容】

##### ■ (仮称)みやまえカルタを制作します

- ・ 平成 24 年度に区政 30 周年記念を迎えることから、その年を目指し区政 30 周年記念(仮称)みやまえカルタを制作します。
- ・ その前段として、8 つの中学校区ごとの地区別カルタを地域が主体となって制作します。
- ・ 区政 30 周年記念(仮称)みやまえカルタは、上記地区別カルタから選抜することとします。
- ・ カルタの制作にあたっては、「まち歩き」や地域のワークショップを実施するなどそのプロセスを重視することとし、より多くの区民が参加できる方法を目指すこととします。

#### 【実施主体とその役割】

##### ■ (仮称)みやまえカルタ制作実行委員会の設立

- ・ (仮称)みやまえカルタ制作実行委員会(以下「実行委員会」といいます。)において、カルタ作りの基本の方針を策定します。
- ・ 実行委員会では、中学校区ごとの部会を設け、そこで地区別のカルタを制作することとします。部会の実際の活動に際しては、実行委員会のメンバーだけでなく、広く地域から参加者を募ることとします。
- ・ 地区別カルタの制作状況の進行管理・内容調整を行います。
- ・ 多くの人に、地区別カルタの制作過程やその成果を知ってもらうため、発表会イベントを開催することとし、その企画を本委員会が行います。
- ・ 地区別のカルタから選抜される区全体のカルタの選考を行います。

##### ■ 各小学校での取組

- ・ 総合的な学習の「まち探検」の時間を活用し、小学校区単位で手製のカルタ作りを行ってもらうことを、実行委員会から依頼します。
- ・ 制作されたカルタは実行委員会に提出してもらい、地区別カルタの制作に活用することとします。
- ・ 各小学校に対しては、実行委員会から講師を派遣したり、地域の資源の紹介などを行ったりします。

## 【スケジュール】

- ・ (仮称)みやまえカルタの制作にあたっては、概ね次のスケジュールで実施することが望ましいものとします。

	取組内容
平成 22 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体の実行委員会を立ち上げ →中学校区ごとの部会を立ち上げ</li> </ul>
平成 23 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ まち歩き(テーマ別)</li> <li>・ 読み札募集</li> <li>・ 絵札募集</li> <li>・ 地区ごとにフォーラム開催</li> <li>・ 読み札選考</li> <li>・ 絵札選考</li> <li>・ カルタ制作</li> <li>・ 地区ごとにカルタ大会を開催</li> </ul>
平成 24 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カルタの人気投票(インターネット)</li> <li>・ 区民祭で各地区のカルタのプレゼンテーションと人気投票</li> <li>・ 人気投票の結果を受けて、(仮称)区政 30 周年記念みやまえカルタを制作</li> <li>・ 区政 30 周年記念大カルタ大会の開催</li> </ul>

## 5 会議開催経過

宮前区の宝さがし〜ときめき再発見〜部会では、合計 12 回の部会を開催しました。会議の開催経過及び主な議論内容は次のとおりになっています。

宮前区区民会議 宮前区の宝さがし～ときめき再発見～部会 検討経過  
(5月～7月)

区民会議 平成20年 文化・観光、緑、産業、まちづくりパワーなど様々な課題を包含する  
全体会 5月23日 宮前区らしさ(=宮前区の顔)を審議テーマに選定

第1回部会 平成20年 部会名称の決定  
6月23日 具体的な審議テーマについて

■部会名称は「宮前区の宝さがし部会～ときめき再発見～部会」に決定

・部会名称決定に先立って行われた、フリートーキングで出された「再発見」「ときめき」「宝物」「地域」などのキーワードをもとに、協議の結果「宮前区の宝さがし部会～ときめき再発見～」を部会名称として決定した。

■具体的な審議テーマについて

- ・各委員の考える或いは知っている宮前区の「顔」や「宝」についてフリートーキングを実施  
⇒出された意見は、次の項目に分類
- ①なぜ「顔」や「宝さがし」が必要なのか？
- ②なぜ宮前区には「顔」といえるようなものがないのか？
- ③どうなれば、それが宮前区の「顔」「宝物」と言えるか？
- ④どんなものが宮前区の「顔」や「宝物」となりうるか？
- ⑤課題解決策提案の上で鍵になりそうなこと
- ⑥参考になりそうな事例や他地域の話

【配布資料】

- ・宮前区の『顔』 検討対象絞込みのためのメモ
- ・宮前区の『顔』づくりに関する委員意見・提案
- ・宮前区観光資源一覧

第2回部会 平成20年 今後の審議の進め方について  
7月15日 宮前区の宝をさがす目的について  
宮前区のイメージについて

■今後の審議のスケジュール・進め方

・結果的に公園・地域づくり部会と同様の進め方となった  
(任期2年間を通して審議していく)

■宮前区の宝をさがす目的

・宮前区の宝を探すこと目的(宝や顔があることによるメリット、宝や顔を持つことで最終的に目指すもの)について意見交換  
⇒具体的な結論には至らなかったが、次のようなキーワードが出された  
共有意識・コミュニケーション・まちへの愛着・より良いまちにしていこうという意欲・目に見える宝物と見えない宝物(風土) etc...など

【配布資料】

- ・宮前区の宝さがし部会～ときめき再発見～の審議の進め方について
- ・議論ペーパー(白紙)
- ・宮前区の宝をさがす目的を確認するための議論用メモ
- ・現在の宮前区の成り立ちと開発等との関係について
- ・ホームページや雑誌等の紹介にみる「宮前区」
- ・川崎市政及び区政に関する市民1万人アンケート(抜粋)
- ・宮前区の地域資源一覧

■内外から見た宮前区のイメージ ～「宝」をさがすための1つの手がかりとして～

・現在の宮前区がどういった経緯でまちづくりが行われてきたのか、「多摩田園都市構想」の概略を共有  
⇒特に宮前地区については、特定の会社の戦略のもと「良好な住宅地」という一定のイメージのまちづくりが行われてきた

・雑誌やホームページでの宮前区の紹介のされ方をみると、「住環境がよい」という評価がある反面、これといった目玉施設がないため紹介も少ないという現状

・宮前区に住んでいる人が宮前区をどのようにイメージしているかという調査では、「自然が豊か」という回答が最も多かったが、それでも麻生区や多摩区に比べれば少ない割合であった。また、「特になし」と回答した割合が7区の中で最も多かったのが特徴的(資料3-2参照)

⇒こうした宮前区のイメージ(実態と合っているかどうかは別として)も踏まえながら、今後の議論を進めていく(現在の審議段階:現状と課題の把握)

宮前区区民会議 宮前区の宝さがし～ときめき再発見～部会 検討経過  
(8月～10月)

区民会議 平成20年 7月までの審議状況を報告  
全体会 8月6日

第3回部会 平成20年 宮前区の宝・顔に関する現状と取組について  
9月22日 宝や顔があるまちのイメージについて

■宝物となりうる資源の分類・整理がまず必要である

現状について議論する中で、宝物となりうる資源の分類・整理の必要性について議論された

- ・大分類としては、4～5分類くらいに分けられると良い
- ・これからつくりあげていくもの、すでにあるもの
- ・ハードとソフト又は、見えるもの、見えないもの
- ・観たい価値、買いたい価値、住みたい価値

【配布資料】  
・議論ペーパー

■地域の資源はどうなったら「宝物」や「顔」と言えるのか？

- ・宝物になるということ、顔になることの意味は少し違う
- ・宝物は秘伝・秘密の物や潜在的な物もあるが、顔は外から見ても明らかな存在
- ・より広い範囲の人々から見ても「宝物」と言えるものが「顔」である
- ・顔はいくつもあってはおかしい。顔というところまで絞り込まれる
- ・宝物を顔に「押し上げていく」のではないか
- ・顔には戦略が入っている

第4回部会 平成20年 課題解決策に向けた進め方について  
10月24日 地域の資源について

■資源の性質別の分類

資源の性質別の分類として次の5項目を選定

- |           |                     |
|-----------|---------------------|
| ① 自然      | 風景・緑・水・生物・植物など      |
| ② 歴史文化    | 史跡・伝承・芸術・ゆかり人物など    |
| ③ 暮らし・産業  | 産物・農業・工業など          |
| ④ ふれあい・交流 | イベント・スポーツ・市民活動など    |
| ⑤ まち・施設   | 商店街、ランドマーク、建築物、施設など |

【配布資料】

- ・宮前区の資源の整理・課題解決策の提案に向けた検討資料
- ・議論ペーパー
- ・宮前区の資源（宝物・顔の候補）

■資源を「楽しむ」という視点での分類

資源の価値を評価する指標として次の3項目を選定

- ① みたい（見・観）・ききたい（聞・聴）
- ② 買いたい・食べたい
- ③ やってみたい

■具体的な課題解決策イメージ

- ・資源を宝物に、宝物を顔に押し上げていく具体的なプロセス
- ・宝・顔に押し上げた区の資源を内外にPRするための具体的な手法

宮前区区民会議 宮前区の宝さがし～ときめき再発見～部会 検討経過  
(11月～1月)

区民会議 平成20年 10月までの審議状況を報告  
全体会 11月16日

第5回部会 平成20年 地域の資源について  
12月16日 具体的な課題解決策について

■宮前区の資源（宝物・顔の候補）の取り扱いについて

- ・区民会議が宝物・顔を決めるわけではなく、今後、宝物・顔を作りあげていくにあたって、区民会議として地域に提示できる「資源」に留めておくもの
- ・現在の資源は、事務局の作成したものに、部会委員の意見が反映されたものなので、もっと広く区民から募ってみる必要がある。

【配布資料】

- ・宮前区の資源（宝物・顔の候補）
- ・議論ペーパー

■具体的な課題解決策について

- ・コミュニティの活性化を目指すことを考えると、地域ごとに宝を発見するプロセスそのものが重要となる。
- ・子どもが参加できるような仕掛けがあるといい。
- ・具体的な課題解決策を検討するにあたり、地域のイベントや各種団体に宝さがしをしてもらってはどうか。

第6回部会 平成21年 具体的な課題解決策について  
1月16日 区民会議フォーラムについて

■具体的な課題解決策について

- ・具体的な課題解決策を審議するためのシミュレーションとして、地域のイベントなどの機会や各種団体に宝さがしを行ってもらおう。
- ・この宝さがしは、2～3月に行われるイベント（まちづくり広場ラブみやまえ(2/21)、ディスカバーウォーク(2/22)、文化講演会(2/28)、みやまえ映像コンクール(2/28)）で協力してもらったり、区民会議委員が所属する団体に依頼するなどしてできるだけ年度内に宝を出してもらおうようし、区民会議フォーラムに活かす。
- ・この宝さがしでは、どのような宝が出てくるか、どのような出され方(≒協力度合い)といった点も含めて検証する。

【配布資料】

- ・議論ペーパー
- ・宮前区の資源一覧(カテゴリ別・地域別)
- ・平成20年度宮前区区民会議フォーラムについて(案)

■区民会議フォーラムについて

- ・地域活動事例の紹介として、野川カルタに取り組んでいる地域に参加を依頼することに決定。
- ・分科会では、地域の宝・宮前区の顔に関する「夢」を語り合うこととし、この「夢」を踏まえて、今後の審議を深めていくこととした。

宮前区区民会議 宮前区の宝さがし～ときめき再発見～部会 検討経過  
(2月～4月)

平成二十年度

第7回部会 平成21年 3月3日 区民会議フォーラムについて  
今後の議論の方向性について

■区民会議フォーラム（3月15日開催）について

- ・区民会議フォーラム分科会の検討項目、進行方法、全大会での発表も含めた役割分担について決定。
- ・FMかわさきでのPRについて、永野委員長の出演を決定。

■今後の議論の方向性について

- ・みやまえ映像コンクールについて地域の資源を紹介する手法のひとつとして捉え、区民会議フォーラム会場で映像を流すことを決定。
- ・地域対抗の宝物コンペ、区民の観光大使など、地域の資源や宝物を発掘、共有していくアイデアについて意見交換した。

【配布資料】

- ・平成20年度宮前区区民会議フォーラム分科会（宝さがし）の進め方について（案）
- ・議論ペーパー
- ・具体的な課題解決策 検討資料



区民会議フォーラム

平成21年  
3月15日

平成20年度検討内容の報告



平成二十一年度

第1回部会 平成21年 4月13日 今後のスケジュールと進め方について  
具体的な課題解決策について

■今後のスケジュールと進め方について

- ・9月の部会で議論をまとめ、11月の第3回区民会議全体会で、提案内容をオーソライズするスケジュールで、今後の検討を進める。

■具体的な課題解決策について

- ・小学校区～中学校区単位を基本とした地域での資源や宝物の発掘、共有作業を進める。
- ・メタボ対策ウォーキングマップ、眺望ポイントマップ、お花見マップ、昆虫マップ、駅周辺観光マップなど地域レベルでの様々なテーママップづくりに地域やそれぞれの活動団体が特色を活かしながら取り組む。
- ・野川カルタや映像コンクールなどの取組がより広く区民に知られ、地域の魅力を紹介する活動として区域全体に広がるようにする。
- ・それぞれの取組に更なる演出や”お楽しみ”を加え、様々な背景を持つ区民や、多世代の区民が参加できるように工夫する。
- ・できる地域からモデル的に取組を実施し、手法の検証、検討等行いながら、段階的に取組を広げていく。

【配布資料】

- ・今後のスケジュールと進め方について（案）
- ・宮前区の宝さがしアンケートのまとめ
- ・議論ペーパー



委員参与との  
意見交換会

平成21年  
4月20日

中間報告等に関する参与との意見交換

宮前区区民会議 宮前区の宝さがし～ときめき再発見～部会 検討経過  
(5月～8月)

区民会議  
全体会

平成21年  
5月29日

部会検討経過の報告

第2回部会

平成21年  
6月25日

具体的な課題解決策について

■具体的な課題解決策について

マップづくりの手法や形式

- ・グリーンフォーラム21みやまえや平瀬川流域まちづくり協議会のマップづくりの実例を参考にしたマップづくり
- ・レイヤー形式の導入による多様な地図の組み合わせ

かるたづくりの手法や形式

- ・群馬県人なら誰でもしているという「上毛かるた」の事例の紹介
- その他・全体の進め方など
- ・既存の活動をベースに地域を巻き込んでいく
- ・メディアの活用や宝自慢コンペについての意見交換 など

【配布資料】

- ・議論ペーパー
- ・宮前区の資源一覧
- ・他地域における先進事例について（上毛かるた）

第3回部会

平成21年  
7月9日

具体的な課題解決策について

■具体的な課題解決策について

- ・区政30周年（H24）に向け、8地区（中学校区）別の資源カルタの制作に取り組む。
- ・地区毎に市民活動団体や地域の人材が核となる、実行委員会を立ち上げる。
- ・教育現場、特に小学校の総合学習の場で活用してもらえるかるたを目指し、小学生をメインターゲットとする。
- ・区政30周年の記念事業の一環として、8地区別の資源かるたから選抜された宮前区の宝物かるた（仮称）の制作に取り組む。
- ・完成したカルタの活用を通して、宮前区の資源を宝に、宝を顔に押し上げていく。

※今後の検討課題

取組のスケジュール、担い手、趣旨説明のチラシ作成など取組計画の具体化

【配布資料】

- ・議論ペーパー
- ・具体的な課題解決策の検討に向けての整理
- ・宮前区の資源一覧
- ・平瀬川まちづくり協議会のマップづくり関連資料（松井委員提供）

区民会議  
全体会

平成21年  
8月4日

部会検討経過の報告

第4回部会 平成21年 9月7日 具体的な課題解決策について

■具体的な課題解決策について

マップづくりの手法や形式

- ・推進組織としてみやまえカルタ製作実行委員会を区内関係諸団体に呼びかけて立ち上げる。部会委員も参加する。
- ・小学校の総合的な学習の時間、「まち探検」の中にカルタづくりを組み込んでいただけるように働きかける。
- ・野川カルタの手法や形式を基本形に、できる地域から地域版のカルタを作成していく。学校教育の場で継続的に使われていくようなカルタを目指す。
- ・区民会議フォーラムの場などを活用して、全区的に先行地域の活動成果や作品を発表、情報交換する場を設けていく。
- ・区政30周年事業として、地域版からの選抜による全区版カルタ作成を進める。イベントなどを通じて、機運を盛りあげていく。

【配布資料】

- ・議論ペーパー
- ・提案模式図
- ・宮前区の資源一覧



目指すべき方向性

地域みんなて共有できる宝物（顔）を通じて地域への誇りや愛着を育み、地域コミュニティの形成を図る。

全体会での意見など

- ・ときめき再発見はいい名前だ。宝が活用されないとときめかない。
- ・地域を高め、観光地として、住まいとしての価値を高める。宮前区には知られていない宝がまだまだある。
- ・新しいものを探すことも重要だが、あるものを利用することで新しいものを作ることも必要。
- ・宮前区がどこかアピールするものがない。
- ・宮前区は縁がたくさんあって、きれいなまちのイメージである。いいまちだと多くの人が思えるようにしたい。

- ・「やってみたい」がたくさん出てくると良い。
- ・中学校区単位くらいで、地域のみならず宝物を探してもらえそうな動きにしたい。
- ・身近な地域での宝と区全体の宝の2本立てで考えられたらいいと思う。

宮前区の宝・顔に関する現状と取組

- ◆地域資源（宝もの）に関する現状
  - 歴史文化・自然・活動・都市農業など多くの魅力的な資源はあるが、区民にあまり知られていない。
  - 区内の資源を総合的にまとめたわかりやすい資料が無い。
  - 観光協会が発足し、区内の魅力発信に向けた活動を開始した。
  - 目に見える宝のほか、目に見えない宝として風土などがある。
- ◆宮前区に対する内外のイメージ
  - 自然豊かで閑静な住宅地で、教育水準も高いといわれているが、繁華街が少なく、特徴・シンボルに欠ける面がある。
  - 区のイメージで「とくにない」の回答した区民の割合が市内7区で最も多い（H15、市民1万人アンケート）。
  - 「宮前区ってどんなまち？」と聞かれて、答えられるものや、共通のイメージが無いのではないかと。
- ◆その他 宮前区をめぐる現状
  - 宮前地区と向丘地区は、東名高速道路が概ねその境となっている。→宮前地区は相模の国の影響が、向丘地区には武蔵の国の影響が残っている？
  - 元々、田園都市線沿線を中心に、良好な住宅地として開発されてきた経緯がある。
  - メデア等の露出が多いのは、田園都市線沿線の地域が中心である。

宝や顔があるまちのイメージ

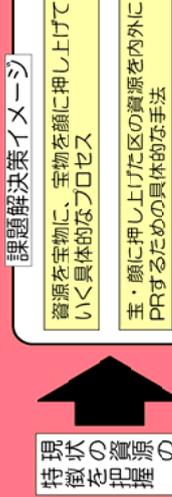
- ◆区民一人ひとりにとって・・・
  - 自分の住んでいるまちについて、区外の人を紹介することができる
  - 地域に愛着を持っている（終の棲家とする）
  - 地域を大切に思い、近隣との良好なコミュニケーションが図れている
- ◆地域社会にとって・・・
  - 地域に愛着を持つ区民が多くなることで、豊かな地域コミュニティが形成され、地域の課題も地域が主体となって解決にあたっている

解決すべき課題

区の「宝」「顔」となりうる様々な資源を区内で共有し、区外には広くPRする必要がある。

PRを効果的に行うためには、資源の特徴をよく掴む必要がある。

【課題解決策に向けた検討手法】



具体的な課題解決策（議論中）

- ◆地域で資源を発掘し共有化するための具体的な手法→小さな地域単位で資源を宝に押し上げる
  - 【地域の単位、取組の進め方など】
    - ・小学校～中学校区の地域単位で取り組む。
    - ・地域団体や教育関係団体をはじめ、様々な世代、背景の区民が参加できる工夫をする。
    - ・子どもを上手に関わらせることで四輪、祖父母世代を取り込む。
    - ・できる地域からモデル的、段階的に進める。
  - カルタづくり
    - ・野川カルタをより広く周知し、他地域での取組を推進する。
    - ・絵柄の募集、読み札を俳句や短歌にする、カルタフリー、カルタ大会など更なるお楽しみや演出の工夫を凝らす
  - マップづくり（オブジョン）
    - ・情報だけでなく遊びの要素を入れたマップ（メタボ対策ウォーキングマップ、お花見マップ、昆虫マップ、駅周辺観光マップなど地域の特徴を活かしたマップ）
    - ・マップを活用したイベントを開催する。
- ◆小さな地域単位の宝を区全体の宝にするための具体的な手法→区全体で宝に顔に押し上げる
  - 【これまでのキーワード】
    - 区民祭の活用/区政30周年に向けて/地域対抗の宝のコンペ
- ◆宝・顔に押し上げた区の資源を内外にPRするための具体的な手法
  - ・映像コンクール 地元の宝をうまく映像としてとらえる
  - ・みやまえぼーたろう PDFマップのダウンロードサービス
  - ・小学校の総合学習など教育現場での活用
    - ⇒ 区の共通イメージ形成
    - ⇒ 宮前区大カルタ大会
    - ⇒ 地域対抗・学校対抗など区的大会

# 宮前区区民会議 宮前区の宝さがし〜ときめき再発見〜部会

課題解決策提案：区政30周年に向けた、地域資源カルタ・宮前区の宝物カルタ（仮称）の作成

## 取組の前提

- 資源の整理・データ化
  - 楽しみ方3分類
    - ・みたい/ききたい
    - ・買いたい/食べたい
    - ・やってみたい
  - 資源5大分類
    - ・自然
    - ・歴史文化
    - ・産業
    - ・人/活動
    - ・まち/施設
- 実施地域～中学校区で～
 

実施地域は中学校単位とするが、実施主体については、地域の実情に応じて柔軟に対応
- 実施主体～区民参加で～
  - 実施主体の核
    - ・ワークショップやまちあるきなどの資源発掘の実績がある団体
  - 一緒に取り組む団体など（例）
    - ・小学校(総合学習等への取り入れ)
    - ・町内会・自治会
    - ・老人会
    - ・地区社会福祉協議会
    - ・地区民生委員・児童委員協議会
    - ・体育指導員会
    - ・青少年指導員会
    - .....

## 資源の発掘・共有のプロセス

### 宮前区の宝探し

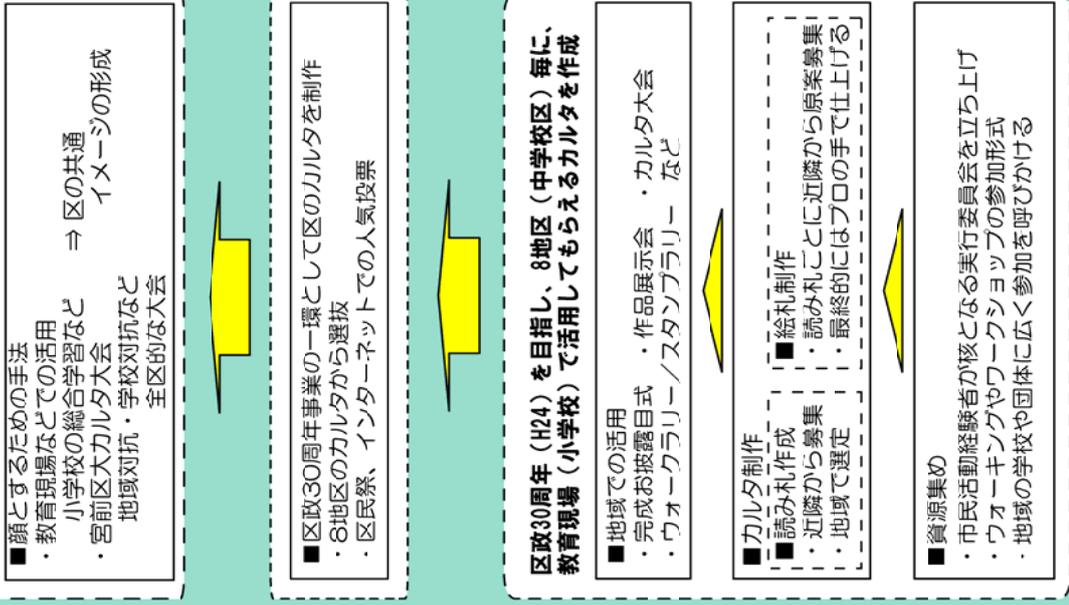
地域レベルで地域の”資源”を発掘・再認識し、共有しよう！

#### ● カルタづくり

- 形式
  - ・地域資源を題材とした絵札・読み札の作成
  - ・俳句や短歌形式の取入れなど
- 事例
  - ・区内：野川ふるさとカルタ
  - ・市内：川崎市制80周年記念かわさきかるた
  - ・市外：上毛かるた(群馬県全域)

#### ● マップづくり (オプション)

- 形式
  - ・テーマに沿った地域資源をプロット
  - ・テーマ別にレイヤー形式で
  - ・写真やイラストとの組み合わせ
- テーマ例
  - ・メタボ対策ウォーキング/ジョギング、生き物/昆虫
  - ・名木/お花見/ガーデニング
  - ・坂/眺望ポイント
- 事例
  - ・グリーンフォーラム21みやまのマップづくり
  - ・平瀬川流域まちづくり協議会のマップづくり



顔

宝

資源

今後の検討課題：取組の具体スケジュール、担い手、地域や諸団体への呼びかけのための資料作成など